

元寇所縁の自治体調べ

※青・・・ネットワーク加入自治体 / 黄・・・情報提供等による連携自治体

地域	自治体名	元寇関連の鎌倉武士	元寇ゆかりの内容	参考文献等
関東	神奈川県 鎌倉市	北条 時宗 (ほうじょう　ときむね)	文永の役。弘安の役。鎌倉幕府第8代執権　北条　時宗。1282年に円覚寺を建立し元寇の両軍の菩提を弔った。時宗の墓所も円覚寺。	アンゴルモア博多編6巻P9、蒙古襲来と武士
		安達 泰盛 (あだち　やすもり)	文永の役。肥後国守護。文永の役では恩賞奉行。安達　泰盛。竹崎季長からの願いを聞き入れ、肥後の海東郷(現在の宇城市海東地区)の地頭職を命じた。	蒙古襲来絵詞
		安達 盛宗 (あだち　もりむね)	弘安の役。肥後国守護代　安達　盛宗。父は安達　泰盛。盛宗の指揮下で竹崎季長が活躍。元寇後の処理も担当したが、「霜月騒動」で戦死。	図録「蒙古襲来と博多」
	千葉県 市川市	太田 左衛門 (おおた　ざえもん)	文永の役。少式景資の被官。八幡庄(やわたのしょう)代官。　太田　左衛門。八幡庄は、千葉県市川市の北部。文永年末に出家して乗明(じょうみょう)と名乗った。	アンゴルモア博多編1巻P159 アンゴルモア博多編2巻P32
	群馬県佐波郡 玉村町	玉村 盛清 (たまむら　もりきよ)	弘安の役。安達盛宗の有力後家人　玉村　三郎盛清。肥後国守護代として下向した安達盛宗に従って弘安の役に参戦した。上野国那波郡玉村御厨を領した。	蒙古襲来絵詞
四国	愛媛県 松山市	河野 通有 (こうの　みちあり)	弘安の役。伊予御家人　河野　通有。伊予(愛媛県)の水軍を率いて元の船に夜襲。久米郡石井郷(現、松山市)を領有し、縦淵(たてぶち)城を本拠とする。	『愛媛人物博物館～人物博物館展示の愛媛の偉人たち～』より
	愛媛県 西条市		弘安の役。伊予御家人　河野　通有。河野　通有の供養塔は西条市指定文化財。草野経永の夜討ちの翌日に夜襲をかけている。河野の後築地(こうののうしろつじ)。	図録「蒙古襲来と博多」、蒙古襲来と武士
	愛媛県 今治市		弘安の役。伊予御家人　河野　通有。蒙古襲来にあたり、通有は大山祇神社に参詣祈願。その際に兜をかけたと伝わる桶がある。同社の宝物館には、通有が奉納した元軍武将の兜、弓があり重要文化財に指定されている。	図録「蒙古襲来と博多」、蒙古襲来と武士、大山積神社史ほか
中国	山口県 下関市	三井 資長 (みつい　すけなが)	文永の役。長門国御家人　三井　資長。竹崎季長の姉婿。竹崎季長とともに鳥飼の戦いでわずか5騎で攻め入った。長門国守護代　三井季成(竹崎季長の烏帽子親)の一門とみられる。三井家代々の居住であった「三太屋敷跡」が下関市にある。	蒙古襲来絵詞、蒙古襲来と武士
		三郎二郎 資安 (さぶろうじろう　すけやす)	文永の役。竹崎季長の郎党(旗指※軍旗を持つ人)　三郎二郎　資安。本来は、長門国御家人　三井家の郎党。竹崎季長とともに鳥飼の戦いでわずか5騎で攻め入った。	蒙古襲来絵詞 アンゴルモア博多編2巻P113
福岡県	福岡市 (西区加入)	北条 実政 (ほうじょう　さねまさ)	弘安の役。鎮西大將軍　北条　実政。弘安の役で幕府の命により下向し、大將軍として軍を率いる。父は、金沢北条(横浜市金沢)の祖、北条実時。弘安の役後、従五位上を受け、上総介に任官。長門探題に任じられた。後に鎮西探題となる。	図録「蒙古襲来と博多」、日本外史ほか
	福岡県 朝倉市	秋月 種家 (あきづき　たねいえ)	弘安の役。筑前国　秋月家3代当主　秋月　種家。2,700余人を率いて博多に出陣し功をあげた。蒙古襲来絵詞に描かれた秋月種宗は兄弟？祖は大蔵氏。その後原田氏。祖父種雄(たねかつ)の時に秋月荘を与えられ秋月姓を名乗る。秋月城。	武家家伝秋月氏ほか
		秋月 種頼 (あきづき　たねより)	弘安の役。筑前国　秋月家4代当主　秋月　種頼。種家の子。異国警固使として、石築地の普請に従事。	北肥戦史
		秋月 種宗 (あきづき　たねむね)	文永の役。弘安の役。筑前国　御家人　秋月　種宗。蒙古襲来絵詞に描かれた。	蒙古襲来絵詞
	福岡県 糸島市	原田 種照 (はらだ　たねてる)	文永の役。高祖(たかす)城城主　原田　種照。弟の種之とともに6,500騎を引き連れて参戦するも箱崎付近で戦死。祖は大蔵氏。原田氏は「大蔵」を本姓とし、中世北部九州の国人衆である「秋月」「波多江」「深江」「小金丸」「江上」「高橋」「三原」「原」「田尻」の各氏の祖。大蔵春実が原田庄に居住するようになり、原田姓を称するようになった。	武家家伝原田氏ほか
		原田 種之 (はらだ　たねゆき)	文永の役。弘安の役。種照の弟、原田　種之。文永の役では、兄とともに奮戦。弘安の役では、子の種房とともに今津での防戦に活躍。	武家家伝原田氏ほか
	福岡県 太宰府市	少式 資能 (しょうに　すけよし)	文永の役。弘安の役。筑前・肥前・吉岐・対馬守護及び鎮西西方奉行　少式　資能。子の経資、景資が実戦の指揮にあたった。	アンゴルモア博多編1巻P105、図録「蒙古襲来と博多」
		少式 経資 (しょうに　つねすけ)	文永の役。弘安の役。西方奉行一門　少式　経資。資能の子。元寇では、弟の景資(かけすけ)とともに実戦の指揮にあたった。父から家督を受け継ぎ少式家3代当主となる。	アンゴルモア、図録「蒙古襲来と博多」
	福岡県 那珂川市	少式 景資 (しょうに　かけすけ)	文永の役。弘安の役。西方奉行一門　少式　景資。父資能の命を受け、兄の経資とともに指揮。蒙古の副元帥　劉復亨を矢で射止めるなど大功をあげた。鷹島においても約1週間にわたる掃討戦で元軍を全滅させた。弘安の役からわずか4年後「霜月騒動」で岩門城において非業の死をとげた。少式景資の墓は那珂川市にある。	アンゴルモア1巻P111ほか、図録「蒙古襲来と博多」、蒙古襲来と武士
	福岡県 久留米市	神代 良忠 (くましろ　よしただ)	文永の役。弘安の役。筑後国高良山衆　神代　良忠。筑後川の通行を管理していた高良(こうら)大社の一族。筑後川に舟を並べ板を渡し、肥後・薩摩・日向・大隅の諸郡を渡河させた。自軍も博多に参戦。文永の役後、石塁普請にも参加。弘安の役にも参戦している。渡河の功により、北条時宗から感状を受けている。	アンゴルモア博多編6巻P80、蒙古襲来と武士
		草野 経永 (くさの　つねなが)	弘安の役。肥前国(筑後国出身)御家人　草野　経永。元軍を夜討するなど活躍。久留米市立草野歴史資料館。弘安の役の際、筑後国から肥前国の鏡社宮司となっていた。	図録「蒙古襲来と博多」

元寇所縁の自治体調べ

※青・・・ネットワーク加入自治体 / 黄・・・情報提供等による連携自治体

地域	自治体名	元寇関連の鎌倉武士	元寇ゆかりの内容	参考文献等
	福岡県 筑後市	西牟田 永家 (にしむた ながいえ)	弘安の役。筑後国御家人 西牟田 永家。防塁建築に参加。弘安の役で、鷹島において武功をあげ肥前国神崎の荘園数力所を恩賞として受けている。西牟田 家永との表記もあり。	筑後市の文化財、蒙古襲来と武士
	福岡県 みやま市	田尻 種重 (たじり たねしげ)	弘安の役。筑後御家人 田尻 三郎 種重。弘安の役の際、種重・種宗・種継が参戦し戦死。その功により、子息や跡に恩賞地が給されている。	筑後市史、田尻文書、田尻家譜、比志島文書
		田尻 種宗 (たじり たねむね)	弘安の役。筑後御家人 田尻 次郎 種宗。弘安の役の際、種重・種宗・種継が参戦し戦死。その功により、子息や跡に恩賞地が給されている。 種光との記載もあり。	筑後市史、田尻文書、田尻家譜、比志島文書
		田尻 種継 (たじり たねつぐ)	弘安の役。筑後御家人 田尻 四郎 種継。弘安の役の際、種重・種宗・種継が参戦し戦死。その功により、子息や跡に恩賞地が給されている。	筑後市史、田尻文書、田尻家譜、比志島文書
	福岡県 八女市	光友 又二郎 (みつとも またじろう)	文永の役。筑後国御家人 光友 又二郎。鳥飼の戦いで首を射られ証人となった。旧上妻村(現在の八女市立花町原島)の住。	アングルモア博多編3巻P85
		小野 頼承 (おの らいしょう)	弘安の役。安達盛宗の被官 小野 大進頼承。弘安の役の際、越前殿(安達盛宗)の被官として出陣。大功をたて鎌倉幕府に重用されたが、霜月騒動で失脚。その後疑いが晴れ、頼承の子頼時が小野の庄の地頭職となり八女市星野村に小野神社を創建。	蒙古襲来絵詞
		香西 度景 (こうさい のりかげ)	弘安の役。筑後国木小屋地頭 香西 度景。弟の広度とともに御厨子崎の海上において元軍の兵船に乗り移り奮闘。広度は元軍と組みあい海中に没す。	五條家文書、蒙古襲来と武士
	福岡県 みやこ町	宇都宮 通房 (うつのみや みちふさ)	文永の役。弘安の役。城井宇都宮氏4代目 宇都宮 通房。城井宇都宮氏の4代目。曾祖父(城井初代)の時に、豊前国府に近い木井馬場(現在のみやこ町)を本拠としている。後に鎮西談議所頭人となる。法名「尊覚(そんかく)」。後年、豊前国宇佐郡佐田庄の地頭職を与えられた。 子の頼房の時に築上町本庄に本拠地を移している。	アングルモア博多編1巻P106
	福岡県 築上町			
佐賀県	佐賀市	高木 家宗 (たかぎ いえむね)	文永の役。弘安の役。肥前国御家人 高木 伯耆六郎(ほうきろくろう) 家宗。少弐氏の指揮下で参戦。武功をあげた。高木家は南北朝時代まで代々河上社(佐賀市川上の与止日女神社)の大宮司を務めた。	高木瀬町史、蒙古襲来と武士
		国分 季高 (こくぶん すえたか)	文永の役。弘安の役。肥前国御家人 国分 季高。少弐氏の指揮下で参戦。武功をあげた。国分家は国分寺の地頭。季高は、玉林寺や印輪社を建立。	高木瀬町史、大和町史
		龍造寺 季時 (りゅうぞうじ すえとき)	弘安の役。肥前国御家人 龍造寺 季時。龍造寺季益の子。少弐(武藤)資時とともに壱岐に向かった元軍を船で追い参戦。弘安の役で戦死。このため家督は弟の季友が継いだ。高木季家が龍造寺家の初代当主。	龍造寺家文書
		龍造寺 家清 (りゅうぞうじ いえきよ)	弘安の役。肥前国御家人 龍造寺 家清。龍造寺季友の子。壱岐瀬戸浦において元軍と戦った。	龍造寺家文書、蒙古襲来と武士
		於保 種宗 (おほ たねむね)	弘安の役。肥前国御家人 於保 種宗。少弐氏の指揮下で参戦。弘安の役で武功をあげた。	高木瀬町史、大和町史
	佐賀県 唐津市	佐志 房 (さし ふさし)	文永の役。松浦党 肥前国佐志村の地頭 佐志 房。文永の役において子息の直(なおす)、留(とむる)、勇(いさむ)らとともに対馬で戦死。	蒙古襲来と武士、有浦家文書
		石志 二郎 (いしし じろう)	文永の役。松浦党 石志 二郎。石志(現在の唐津市)の地頭 石志 兼(いしし かねる)の子。文永の役で戦死。	石志文書
	佐賀県 伊万里市	山代 諧 (やましろう かのう)	文永の役。松浦党 山代 諧。山代 廣の子。文永の役において惣領の佐志房らとともに対馬で戦死。山代氏の代々の居城は飯盛城(伊万里市山代町久原)。	松浦山代家文書
		山代 栄 (やましろう さかえ)	弘安の役。松浦党 山代 栄。山代 諧の子。弘安の役において壱岐で奮戦し功を上げた。父(諧)の文永の役の功で肥前国恵利村の地頭職となった。※恵利村は現在の小城市(江里環濠)付近か。	松浦山代家文書、蒙古襲来と武士
	佐賀県 多久市	多久 宗国 (たく むねくに)	弘安の役。肥前国多久庄領主 多久 宗国。宗国は、高木氏、龍造寺氏らとともに博多湾に石塁をつくる石築地役をつとめた。鎌倉幕府御家人 多久 宗直(たく むねなお)が武功により下向したのが多久氏のはじまり。宗国は宗直の子か。	九州治乱記、多久市史
		多久 宗行 (たく むねゆき)	弘安の役。肥前国多久庄領主 多久 宗行。鎌倉幕府御家人の多久 宗直(たく むねなお)の孫。壱岐大瀬戸において勲功を抽すとの記録が残っている。	多久市議会だより
	佐賀県 武雄市	藤原 資門 (ふじわら すけかど)	弘安の役。肥前国御家人 藤原 資門。黒尾社大宮司。御厨合戦において千崎で敵船に乗り移り、負傷しながらも敵兵一人を生け捕り、さらに一人の首を分捕った。黒尾神社は武雄市に2つ(山内町と朝日町)ある。武雄神社文書(佐賀県最古の古文書。国指定重要文化財)に黒尾社大宮司藤原資門申状が含まれる。	鎌倉遺文、黒尾社大宮司藤原資門申状、蒙古襲来と武士
		船原 三郎 (ふなはら さぶろう)	弘安の役。関東御家人 船原 三郎。船原三郎祐光。甲斐国の波木井実長の三男。壱岐及び鷹島で戦い元軍に勝利。功績として武雄の一部を領地として受け、今福と志佐にも飛地を受けている。武雄市山内町船ノ原地区。	山代文書、蒙古襲来と武士

元寇所縁の自治体調べ

※青・・・ネットワーク加入自治体 / 黄・・・情報提供等による連携自治体

地域	自治体名	元寇関連の鎌倉武士	元寇ゆかりの内容	参考文献等
	佐賀県 小城市	千葉 頼胤 (ちば よりたね)	文永の役。文永の役で下向。文永の役で受けた傷がもて1275年に小城で没。鎌倉幕府御家人 千葉 頼胤。千葉城。子の宗胤(むねたね)は、肥前千葉氏の祖となった。	アンゴルモア博多編1巻P106
	佐賀県 有田町	有田 究 (ありた きわめ)	文永の役。松浦党 有田 三郎 究。元軍船に夜襲。有田 栄の子。有田氏の2代当主。唐船城城主。	アンゴルモア博多編5巻P56
	佐賀県 白石町	白石 通泰 (しろいし みちやす)	文永の役。肥前国白石(現在の杵島郡白石町)御家人 白石 通泰。竹崎季長を救った鳥飼潟の戦いに参戦。後に竹崎季長を頼り、肥後国海東郷の海東阿蘇神社の神職となった。同神社は、現在も白石氏が管理している。	アンゴルモア博多編2巻P84ほか、蒙古襲来絵詞、蒙古襲来と武士
長崎県	長崎市	福田 兼重 (ふくだ かねしげ)	文永の役。弘安の役。肥前国福田荘(現在の長崎市福田)御家人 福田 兼重。竹崎季長を救った鳥飼潟の戦いに参戦。福田兼重申状。	アンゴルモア博多編3巻P85、蒙古襲来と武士
		深堀 時仲 (ふかほり としなか)	文永の役。弘安の役。肥前国八ヶ浦(現在の長崎半島西部)御家人 深堀 時仲。弘安の役では壱岐まで進攻して功績をあげ、肥前国神崎庄に庄内の地を与えられている。	肥前国深堀の歴史ほか
		福田 兼光 (ふくだ かねみつ)	弘安の役。肥前国福田荘(現在の長崎市福田)御家人 福田 兼光。兼重の子。父とともに海上から元軍を攻撃し活躍した。	蒙古襲来と武士
	平戸市	松浦 答 (まつうら ことふ)	文永の役。弘安の役。平戸松浦家当主 松浦 答(ことふ※こたうとの記もあり)。文永の役では博多で、弘安の役では志賀島等で参戦。小舟に乗って夜間の奇襲を敢行するなど海戦に長じて勇名を馳せた。通称は、源五。	史都平戸
	佐世保市	志佐 継 (しざ つづく)	弘安の役。肥前国御家人志佐氏当主 志佐 三郎兵衛(さぶろうひょうえ) 継。子の祝とともに参戦し、活躍した。弘安の役の恩賞配分がなかったことから、継は、有田 深、山代 栄とともに一族を代表して幕府に参向した。志佐氏の居城は、志佐氏初代貞の時に築城された直谷城(佐世保市吉井町)。陣ノ内城(松浦市志佐町)は、直谷城築城後も志佐氏は、一時、壱岐を領有していたことから海に近い陣ノ内城を出城として活用していた。陣ノ内城跡にある寿昌寺は、志佐氏の菩提寺と伝わっている。	武家家伝志佐氏、山代文書、
	松浦市			
	対馬市	宗 助国 (そう すけくに)	文永の役。対馬守護代 宗 助国。手勢八十騎を率いて佐須浦(小茂田浜)で戦い討死。	アンゴルモア1巻P94ほか、蒙古襲来と武士
		宗 盛明 (そう もりあきら)	文永の役。弘安の役。宗 盛明。宗 助国の嫡子(長男)。通称:右馬太郎(うまたろう)。文永の役では生き延び、弘安の役では対馬守護代として戦う。	アンゴルモア博多編4巻P41
		対馬 小太郎 (つしま こたろう)	文永の役。弘安の役。対馬 小太郎。船手の小太郎。文永の役の際に、対馬守護代 宗助国の命を受け、兵衛次郎とともに蒙古襲来を博多へ知らせた。松浦市鷹島町にある対馬小太郎の墓は、松浦市指定史跡。	アンゴルモア博多編4巻P41、蒙古襲来と武士
		兵衛 次郎 (ひょうえい じろう)	文永の役。弘安の役。兵衛 次郎。文永の役の際に、対馬守護代 宗助国の命を受け、小太郎とともに蒙古襲来を博多へ知らせた。松浦市鷹島町にある兵衛次郎の墓は、松浦市指定史跡。	蒙古襲来と武士
	壱岐市	平 景隆 (たいらの かげたか)	文永の役。壱岐守護代 平 景隆。文永の役の際、兵100騎とともに応戦したものの、圧倒的兵力差の前に敗れ、壱岐の樋詰城で自害。	八幡愚童訓、アンゴルモア
		少弐 資時 (しょうに すけとき)	文永の役。弘安の役。壱岐守護代 少弐 資時。文永の役の際、12歳で初陣。弘安の役の際、19歳で戦死。	アンゴルモア、蒙古襲来と武士
	新上五島町	青方 家高 (あおかた いえたか)	弘安の役。肥前国御家人 青方 家高。弘安の役に際し、子の能高とともに家子郎党を従え奮戦し、勲功として肥前神崎庄、筑後国三潯庄是友名の田畑及び地頭職を賜った。青方神社。	青方文書、武家家伝 青方氏
熊本県	熊本市	詫摩 時秀 (たくま としひで)	弘安の役。肥後国御家人 詫摩 時秀。別当次郎時秀。詫摩能秀(たくまよしひで。大友能直の次男。詫摩家の祖。)の長男。弘安の役の武功により筑前志登社地頭職をあたえられる。かつてあった詫麻村は1970年に熊本市と合併した。	蒙古襲来絵詞
		詫摩 頼秀 (たくま よりひで)	文永の役。肥後国御家人 詫摩(磨) 頼秀。詫摩時秀(たくまとしひで)の長男。100騎を率い、菊池武房とともに赤坂で奮戦。詫摩文書。かつてあった詫麻村は1970年に熊本市と合併した。	詫摩文書ほか
	熊本県 荒尾市	小代 重泰 (しょうだい しげやす)	文永の役。弘安の役? 肥後野原(のぼる)庄 地頭 小代 重泰。墓所がある浄業寺(熊本県荒尾市)の「浄業寺古塔碑群」は、熊本県の指定史跡となっている。	アンゴルモア博多編1巻P106
	熊本県 宇城市	竹崎 季長 (たけざき すえなが)	文永の役。弘安の役。蒙古襲来絵詞。肥後の御家人。竹崎 季長。文永の役では、鳥飼潟の戦いで先駆けを行った。弘安の役では、志賀島の戦いや御厨海上合戦において敵の軍船に斬り込み、元兵の首をとるなどの活躍で軍功をあげた。自身の元寇での武功や鎌倉へ赴く事情などを中心に「蒙古襲来絵詞」を描かせた。	アンゴルモア博多編2巻P66ほか、蒙古襲来絵詞、蒙古襲来と武士
	熊本県 菊池市	菊池 武房 (きくち たけふさ)	文永の役。弘安の役。菊池一族10代当主 菊池 武房。菊池武房が率いる菊池勢100騎は、文永の役で赤坂まで進出してきた元軍を破り、元兵の首を多数つけて帰陣した。弘安の役でも武功をあげた。その活躍ぶりは蒙古襲来絵詞にも描かれている。	アンゴルモア博多編1巻P130、蒙古襲来絵詞、蒙古襲来と武士
		赤星 有隆 (あかほし ありたか)	文永の役。弘安の役。肥後赤星氏初代当主 赤星 有隆。菊池 武房の実弟。武房とともに赤坂の戦いで活躍。弘安の役の際も生の松原で防戦するなど活躍した。	アンゴルモア博多編1巻P131

元寇所縁の自治体調べ

※青・・・ネットワーク加入自治体 / 黄・・・情報提供等による連携自治体

地域	自治体名	元寇関連の鎌倉武士	元寇ゆかりの内容	参考文献等
	熊本県 玉名市	藤源太 資光 (とうげんた すけみつ)	文永の役。竹崎 季長の郎党 藤源太 資光。天水町史人名索引に記載あり。鳥飼の戦いで季長とともに戦った5騎の1人。「後続を待ち、1番手柄の証人を立てるべき」と進言。天水町は2005年に合併して玉名市となる。	蒙古襲来絵詞
		大野 国隆 (おおの くにたか)	弘安の役。大野小次郎国隆。弘安の役に参戦し奮闘した。紀氏。日嶽城(鶴城)。肥後国玉名郡大野別府(現玉名市)は大野氏の惣領。	蒙古襲来絵詞
	熊本県 天草市	大蔵 太子 (おおくらの ふとこ)	文永の役。弘安の役。肥後国御家人 天草大夫(あまくさだゆう) 大蔵 太子(ふとこ。たかこ、たいこ、もところ諸説あり)。地元水軍を率いて参戦。通称:播磨局(はりまのつばね)。父の種有(たねあり)から地頭職と本渡城城主の座を譲られた。後に甥の種増(たねます)を養子に迎え、家督を譲った。種増は元寇で武功をあげ、播磨局も高齢ながら参戦したとされている。元寇後、本渡諏訪神社を創建。種増は天草氏を名乗るようになる。	アンゴルモア博多編2巻P146
		大蔵 種資 (おおくらの たねすけ)	文永の役。肥後国御家人 大蔵 種資。大蔵 太子の弟。種資の子種増は太子の養子となり、元寇で武功をあげ、天草氏を名乗るようになった。	アンゴルモア博多編3巻P15
	熊本県 上天草市	大矢野 種保 (おおやの たねやす)	文永の役。弘安の役。肥後国 御家人 大矢野 種保、種村兄弟。大矢野兄弟の活躍は蒙古襲来絵詞に描かれている。大矢野城址は上天草市指定史跡。	蒙古襲来絵詞、蒙古襲来と武士
		大矢野 種村 (おおやの たねむら)		
	熊本県 和水町 (なごみ)	江田 秀家 (えた ひでいえ)	文永の役。肥後国御家人 江田 秀家。江田城主。蒙古襲来絵詞で「江田又太郎秀家と竹崎季長は兜を交換して互いに目印にして助け合おうと約す。」と書かれている。	蒙古襲来絵詞
大分県	大分市	大友 頼泰 (おおとも よりやす)	文永の役。弘安の役。豊後守護及び鎮西東方奉行 大友 頼泰。大友頼泰の墓は大分市指定史跡。	アンゴルモア、図録「蒙古襲来と博多」、蒙古襲来と武士
	大分県 豊後高田市	都甲 惟親 (とごう これちか)	文永の役。弘安の役。豊後国御家人 都甲 惟親。文永の役では鳥飼渦の戦いで奮戦。弘安の役では肥前鷹島の東浜から上陸し、元軍と奮戦した。豊後国国東軍都甲荘領主。	アンゴルモア博多編3巻P85、都合谷の歴史、蒙古襲来と武士
		都甲 惟遠 (とごう これとお)	弘安の役。豊後国御家人 都甲 惟遠。父の惟親とともに弘安の役で鷹島の戦いに参戦。元軍の残党一掃に活躍した。	都合谷の歴史、蒙古襲来と武士
	大分県 豊後大野市	大友 親時 (おおとも ちかとき)	弘安の役。大友氏4代当主 大友 親時。弘安の役で九州の諸将を指揮して武功をあげた。大友頼泰の嫡子。豊後大野市にある親時の墓(中尾五輪塔)は、大分県指定文化財になっている。	図録「蒙古襲来と博多」
		戸次 重秀 (べっし しげひで)	文永の役。東方奉行一門 戸次 重秀。文永の役に参戦。戸次家は、大友親秀の二男、重秀を祖とする。豊後国大分郡戸次荘に住したころから戸次姓を名乗る。戸次氏館(べっししのやかた)。鎧ヶ岳城は戸次重秀の築城とされる。	大友文書録、武家家伝戸次氏ほか
	大分県 日田市	日田 永基 (ひた ながもと)	文永の役。豊後国日田郡郡司 日田 永基。大蔵氏の一族。姪浜や百路原の戦いで戦功をあげた。	蒙古襲来絵詞、日田記、蒙古襲来と武士
	宮崎県 国富町	伊東 祐頼 (いとう すけより)	文永の役。日向国伊東家3代当主 伊東祐頼。伊東祐光の代官として参戦。日向国木脇(きわき)を領したことから木脇祐頼ともいわれる。	日向伊東氏ほか
鹿児島県	鹿児島市	比志島 時範 (ひじま ときのり)	弘安の役。薩摩御家人 比志島 時範。島津長久の船に乗り、吉岐で元軍の上陸を防いだ。居城は比志島城(鹿児島市皆与志町)。	薩摩比志島文書、鎌倉遺文、武家家伝比志島氏、蒙古襲来と武士
	鹿児島県 出水市	島津 久経 (しまづ ひさつね)	文永の役。弘安の役。薩摩守護 島津家三代当主 島津 久経。文永の役では筑前の守備。弘安の役でも活躍。島津家代々の墓所がある「感応寺五廟社」は出水市指定文化財。	図録「蒙古襲来と博多」、蒙古襲来と武士
		島津 忠宗 (しまづ ただむね)	文永の役。弘安の役。薩摩守護 島津家四代当主 島津 忠宗。父の久経とともに元寇で武功をあげた。北部九州の警固及び元寇防壁の建造。島津家代々の墓所がある「感応寺五廟社」は出水市指定文化財。	アンゴルモア博多編1巻P106
		島津 長久 (しまづ ながひさ)	弘安の役。薩摩御家人 島津 長久。兄の久経とともに参戦。島津家代々の墓所がある「感応寺五廟社」は出水市指定文化財。	薩摩比志島文書、鎌倉遺文、蒙古襲来と武士

48自治体

武士79名